

# 子どもと表現指導法

## —保育者養成校における伝統文化の意識と和太鼓の認知—

### Children and Expression Teaching Methods: Awareness of Traditional Culture and Recognition of *Wadaiko* in Nursery Schools

(2021年3月31日受理)

土 師 範 子

Noriko Haji

Key words : 領域「表現」、指導法、和太鼓、伝統文化、教育、保育者養成

## 要 旨

現在の日本の教育は、日本の伝統文化教育が重要視されている。岡山市にあるC大学では、将来小学校・幼稚園教諭、保育士を目指す学生を養成している。楽器に特化した授業では、鈴やタンブリン、カスタネットなど小学校や幼稚園、保育所で用いられることの多い打楽器を授業の中で取り扱うが、楽器を演奏することに苦手意識があったり、人前で演奏することに抵抗があったりする学生も一定数いる。将来先生となり、子どもへ豊かな音楽、表現指導を行うためには、学生自身が音楽に親しみ、楽器や文化の知識や理解を深めることが重要だと考える。また、大学へ入学するまでにどの程度和太鼓に触れる機会があったのか、日本の伝統文化を意識してきたのか、という疑問が生じ調査を行った。その結果、育ってきた環境に和太鼓や地域のお祭りなどの文化がある学生ほど和太鼓に親しみがあることが分かった。

## I. 研究の動機

現在の日本の教育は、日本の伝統文化教育が重要視されており、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「音楽編」においても学習の充実が求められている<sup>(1)</sup>。幼少期から様々な楽器に触れることや、和楽器に小学校からではなく乳幼児期から親しむ必要性については土師らが2019年に述べている<sup>(2)</sup>。

岡山市にあるC大学では、将来小学校・幼稚園教諭、保育士を目指す学生を養成している。カリキュラムの中で、音楽に関する様々な授業を行っている。入学した学生の多くは、ピアノに取り組むが、未経験者も多く、苦手意識を感じている学生も多く見受けられる<sup>(3)</sup>。

楽器に特化した授業では、鈴やタンブリン、カスタネットなど小学校や幼稚園、保育所で用いられることの多い打楽器を授業の中で取り扱う。それらの楽器に対し、「馴染みはあるが、初めて正しい奏法や扱いを理解した」と

述べる学生も少なくない。また、ピアノと同様に楽器を演奏することに苦手意識があったり、人前で演奏することに抵抗があったりする学生も一定数いる。将来先生となり、子どもへ豊かな音楽、表現指導を行うためには、学生自身が音楽に親しみ、楽器や文化の知識や理解を深めることが重要だと考える。

それでは、日本の伝統楽器はどうであろう。和太鼓を取り扱う授業では、始めに和太鼓を全員で運ぶところから始まるが、まず和太鼓の重さに驚いている。桴を配ると「重い」「軽い」「長い」「太い」等の感想を思い思いに言葉にする。自分たちで音を出してみると振動や、打った手応えに驚く姿が多く見られる。指導者が、和太鼓を一発打って聴かせると大多数が体に力を入れ「わぁ!!」等の声を出したり、耳を塞いだりしている。学生にとって一つ一つが新鮮で物珍しそうな様子が多く見受けられる。そういった学生の姿を何年も見ているうちに、大学へ入学するまでにどの程度和太鼓に触れる機会があった

のか、日本の伝統文化を意識してきたのか、という疑問がわいた。日本の伝統文化とはいえ、地域社会や教育が意識的にそれらに触れる場を設けなければ、学び親しむ機会が少ない。そういった学生がどのように次世代を担う子どもへ日本の伝統文化を伝承していくのだろうか。

そこで、本論では和太鼓を取り入れた授業の際に、学生にアンケートを実施した。その結果を基に現在の学生の、日本の伝統文化に対する意識や、和太鼓の認知度を明らかにし、よりよい表現活動や指導法へ繋げるための一考察とする。

## Ⅱ. 方 法

### 1. 調査対象者

C大学「子どもと音楽研究」を受講している3年生54名。

### 2. 調査日

令和2年7月7日

### 3. 調査方法

次のアンケートを実施した。

### 子どもと音楽研究

2020.7.7(火)

学籍番号 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

#### 【和太鼓に関するアンケート】

※アンケート結果は研究資料の一貫として用います。個人の成績や評価に関わるものではありません。

1. 大学の授業・サークル以外で和太鼓の演奏を聴いたことがありますか

1-1 はい (複数回答可)

お祭りなどのイベント 和太鼓のコンサートやライブ 保幼・小・中・高校の芸術鑑賞会  
テレビ番組 Youtube・インスタなどのSNS その他 ( )

1-2 何回ほど聴いたことがありますか

1~3回 3~10回程度 30回程度 それ以上

1-3 いいえ

生まれて初めて聴いた 音だけは耳にしたことがあったが間近で聴いたのは初めて  
その他 ( )

2. 地元はどこですか ( ) 県 ( ) 市

2-1 地元にお祭りはありますか ある ( )  
ない

2-2 地元で和太鼓グループまたは和太鼓奏者はいますか

いる ( )  
いない

2-3 地元で伝わる伝統的な行事、風習はありますか

ある ( )  
ない

3. 大学の授業以外で和太鼓を演奏したことがありますか。

ある (いつ: \_\_\_\_\_ どこで: \_\_\_\_\_)  
ない

4. 保・幼・小では様々な日本の伝統・文化に取り組み、日本の良さを伝えていくことが重要とされています。あなたは何をどのように子どもへ伝えていきたいと考えますか。

質問項目で「大学の授業やサークル以外」とした理由として、C大学では岡山県内の大学で唯一和太鼓のサークルがあり、学内の行事や地域のイベントなどで精力的に活動している。また、授業の中で和太鼓に触れる機会が複数回あるため、環境として、他大学よりも和太鼓に触れる機会が多いためである。

#### 4. 倫理的配慮

アンケート回答者には、調査の目的と調査者の権利について書面と口頭で説明を行い、調査への同意を得たものとした。記名にした理由は、記述内容によって追跡調査を行うためである。また、研究調査の目的以外には使用しないことも説明を行った。

### III. 結 果

アンケートの項目毎に、結果をまとめると次の通りとなった。

「1. 大学の授業・以外で和太鼓の演奏を聞いたことがありますか」という質問に対し、「はい」47名、「いいえ」7名であった。「はい」と回答した47名のうち、何で聞いたことがあるかという質問に対しては、図1の結果となった。

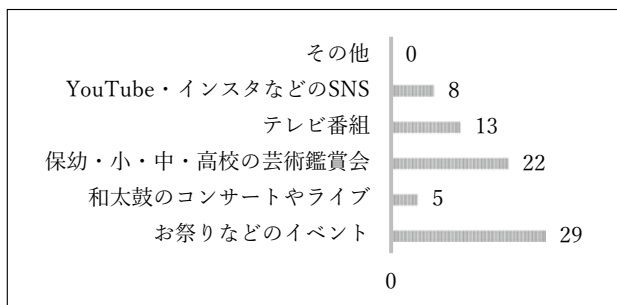


図1 「どのような場面で和太鼓を聞いたか」

「1-2. 何回ほど聞いたことがありますか」という質問に対し、「1~3回」20名、「3~10回程度」19名、「30回程度」2名、「それ以上」2名、無記入4名であった。和太鼓の演奏を聞いたことがないという回答者7名のうち、「生まれて初めて聞いた」1名、「音だけは耳にしたことがあったが生で聞いたのは初めて」5名、無記入1名であった。

「2. 地元はどこですか」という質問に対し、回答者54名の出身県・市は表1の通りである。

県(総数)	市	人数
岡山(37)	岡山	17
	倉敷	9
	新見	3
	赤磐	2
	玉野	1
	高梁	1
	井原	1
	津山	1
	美作	1
	瀬戸内	1
広島(8)	福山	6
	三原	1
	尾道	1
愛媛(3)	今治	2
	南宇和郡	1
島根(2)	讃岐郡	1
	出雲	1
鳥取(1)	鳥取	1
香川(1)	高松	1
高知(1)	高知	1
熊本(1)	八代	1

表1 学生の出身地

「2-1. 地元にお祭りがあるか」の質問に対し、「ある」46名、「ない」8名であった。市町村別の内訳、祭りの名称については表2の通りである。

市	人数	ある	ない	名前	回答数(複数回答)
岡山	17	13	4	桃太郎祭り	3
				木堂祭り	3
				足守メロン祭り	1
				足守さくら祭り	1
				うらじゃ	1
				町内祭り	1
				地元の祭り	1
				学校で行われる祭り	1
				地域の祭り	1
				無記入	3
倉敷	9	9	0	天領祭り	4
				玉島祭り	1
				長尾祭り	1
				乙島祭り	1
				連島	1
				玉島	1
				わくぐり	1
				なまえは知らない	1
新見	3	3	3	新見ふるさと祭り	3
				秋祭り	1
				上市花火大会	1
赤磐	2	1	1	無記入	
玉野	1	1	0	無記入	
高梁	1	1	0	松山踊り	1
井原	1	1	0	盆踊り	1
津山	1	1	0	ごんご祭り	1
美作	1	0	1	無記入	
瀬戸内	1	1	0	長船祭り	1
福山	6	5	1	バラ祭り	3
				ゲタリンピック	1
				はねおどり	1
				無記入	1
三原	1	1	0	やっさ	1
				新明市	1
尾道	1	1	0	ベッチャー祭り	
今治	2	2	0	地方祭り	
南宇和郡	1	1	0	無記入	
讃岐郡	1	1	0	いろいろ	
出雲	1	1	0	くにびき祭り	
鳥取	1	1	1	しゃんしゃん	
高松	1	0	1	無記入	
高知	1	0	1	無記入	
八代	1	1	0	八代妙見祭	

表2 地元のお祭り

「2-2. 地元には和太鼓グループまたは和太鼓奏者があるか」の質問に対し、「ある」11名、「ない」42名、無記入1名であった。「ある」11名の内訳は、表3の通りである。

市(回答者数)	名前等	回答数
岡山(1)	無記入	1
倉敷(2)	祭りの男の人	1
	わからない	1
新見(2)	頭打ち	1
	田植え太鼓	1
福山(2)	小学校のクラブ	1
	社会人グループ	1
	誠之太鼓	1
尾道(1)	無記入	1
讃岐郡	無記入	1
出雲(1)	須佐太鼓	1
八代(1)	秀岳館高校	1

表3 地元の和太鼓奏者・和太鼓グループ

「2-3. 地元には伝わる伝統的な行事、風習がある」の質問に対し、「ある」15名、「ない」36名、無記入3名であった。「ある」と回答した具体的な内容は表4の通りである。

「3. 大学の授業以外で和太鼓を演奏したことがあるか」の質問に対し、「ある」14名、「ない」40名であった。「ある」の回答者に「いつ・どこで」か質問したところ表5の通りとなった。

「4. 保・幼・小では様々な日本の伝統・文化に取り組み、日本の良さを伝えていくことが重要とされています。あなたは何をどのように子どもへ伝えていきたいと考えますか」という質問に対し、自由記述で回答してもらった。書かれた内容をテーマ毎に分類し、内容と回答数を表6にまとめた。

市(回答者数)	名称	回答数
岡山(1)	ししまい	1
倉敷(3)	おみこし	1
	乙島まつり	1
	名前が分からない	1
新見(2)	頭打ち	1
	田植え太鼓	1
玉野(1)	みこし	1
福山(3)	だんじり	1
	いのんさん(?)	1
	盆踊り	1
三原(1)	おにのまめ	1
	お店の人におかしもらえる	1
尾道(1)	ベッチャー太鼓	1
讃岐郡(1)	無記入	1
出雲(1)	石見神楽	1
	獅子舞	1
	番内	1
	神楽花	1
	盆踊り	1
鳥取(1)	ちゃんちゃん傘	1
高松(1)	保育所の年長が祭りで獅子舞	1

表4 地元には伝わる行事・風習

分類	時期	回答数	
いつ	未就学	幼少期	1
		保育園	3
		幼稚園	1
	小学校	小学校	6
		小学校低学年	1
		小学校6年間	1
中学校	中学1年	1	
その他	小3～中2の毎年秋	1	
どこで	イベント	イベント	1
		おみこし	1
		お祭り	1
		乙島祭り	1
		七夕祭りの出し物	1
	授業等	発表会	1
		学習発表会	1
		音楽発表会	1
		クラブ	1
		授業	1
		コンクールの演奏	1
	その他	保育所	1
		地元	1
無記入		1	

表5 和太鼓演奏の経験

分類	内容	回答数			
どこで	活動	2	何を	和太鼓	16
	学校	1		伝統	15
	園	1		体験	14
	発表会	1		遊び	11
	取り組み	1		文化	9
	体育	1		楽器	8
誰が(に, と, へ)	子ども	5		演奏	4
	一緒	3		音楽	2
	みんな	3		祭り	2
	自ら	2		竹馬	2
	おじいちゃん	1		芸能	2
	おばあちゃん	1		行事	1
	何の	日本		14	獅子舞
昔		8		歴史	1
どのような		4		茶道	1
伝統的		1		けん玉	1
あまり触れたことのない		1		メンコ	1
そのままの		1		リズム	1
地元		1		形	1
独特		1		大切	1
貴重		1		思う	1
独自		1		良さ	1
重要		1		かっこよさ	1
海外		1		気持ち	1
分かりやすい		1		気づき	1
どのように	実際に	16		いろんなもの	1
	機会	3		伝えていきたい	25
	聴く	2		触れる	16
	奏でる	1	取り入れる	9	
	叩いて	1	学ぶ	4	
	鑑賞	1	知る	3	
	体で	1	見せる	3	
	身近な	1	やってみる、やってみたい	2	
	通して	1	とりあえずさせる	1	
	手作り	1	つなげる	1	
	何のために	楽しさ、楽しめる	14	どうするか	つづけたい
ちがう		11	使う	1	
感じる		7	教えてもらう	1	
あじあわせる		1	できるようにする	1	
			作る	1	
			映像を見る	1	
			音を出す	1	
			実践	1	
			実施	1	

表6 日本の伝統文化の何をどのように伝えていくか

## IV. 考 察

「1. 和太鼓の演奏を聴いたことがあるか」という質問に対し、54名のうち「ある」と回答したのは47名であった。「何で演奏を聴いたことがあるか」という質問に対し、「お祭りなどのイベント」が29名と最も多く、次いで「保・幼・小・高の芸術鑑賞会」が22名であった。その結果から、地元のお祭りや、イベントなどで和太鼓の演奏が盛んに行われていることがうかがえる。また、平成18年から日本の伝統文化を保育・教育現場で扱われるようになったため、芸術鑑賞会に和太鼓が設定されることも増えているのではないかと考えたが、芸術鑑賞会の中身についての研究は見つけられなかった<sup>(4)</sup>。お祭りやイベント、芸術鑑賞会で和太鼓の演奏を聴く機会が多いということは、地域、保育園や学校などが意図して設定した場で演奏を聴いたということであり、自分の意思とは関係なく演奏を聴いたという学生が多いのではないか。

対して、「Youtube・インスタなどのSNS」、「テレビ番組」が21名いた。最近ではアイドルやお笑い芸人が和太鼓の演奏体験をしている番組がテレビで放送されたり、それらがSNSでアップされたりしている。「好きなアイドルを見たい」が理由で、「和太鼓の演奏を聴きたい」訳ではないかもしれないが、自らの意思で選択し、和太鼓を聴いたと推察される。また、「和太鼓のコンサート・ライブ」で聴いた5名のうち、1名は追跡調査で「和太鼓が好きだからよくコンサートへ行っている」と回答した。そのことから自らの意思を持って和太鼓の演奏を聴いたといえる。このことから、和太鼓に興味を持って演奏を聴いたことがある学生が全体の3割程度いるといえるのではないか。

「1-2. 何回ほど聴いたことがあるか」という質問に対し、「1～3回」20名、「3～10回程度」19名であった。1～10回程度聴いたことがある学生の多くは、「何で聴いたことがあるか」の項目で「お祭りなどのイベント」や「YoutubeやインスタなどのSNS」と回答していた。また、「3～10回程度」の19名のうち、「2-1. 地元にお祭りがあるか」に対して「はい」と回答したのは18名であった。「30回程度」演奏を聴いたことがある学生は2名おり、「和太鼓のコンサートやライブ」や「Youtubeやインスタ

などのSNS」に回答している学生が1名、「お祭りなどのイベント」で聴く機会がある且つ地元にお祭りが「ある」と回答した学生が1名いた。30回よりも多い「それ以上」の学生は2名とも「お祭りなどのイベント」で聴く機会があり、地元にはお祭りがあり、和太鼓グループまたは奏者がいた。また、大学の授業以外での和太鼓の経験があった。このことから、地元には和太鼓が身近にある環境にいる学生は頻繁に和太鼓の演奏を聴いたり、実際に演奏をしたりする機会があることが分かった。

「2-2. 地元には和太鼓グループまたは和太鼓奏者がいるか」の質問に対して、「ある」と回答したのは11名であった。そのうち、固有名詞は「誠之太鼓」「須佐太鼓」「秀岳館高校」の3つのみであった。回答者54名の地元である8県21市町村で活動している和太鼓グループは一定数ある。例えば、岡山県にはおよそ30年前から岡山県和太鼓連盟があり、岡山県内の和太鼓グループが30団体ほど加盟している。連盟のFacebookだけでなく、各グループのホームページやラジオなどのメディア等でも演奏の予定が紹介されている<sup>(5)</sup>。和太鼓そのものが好き、または、好きな和太鼓グループや和太鼓奏者がいれば、それを目当てに演奏を聴きに行くが、訪れた祭りやイベント先で演奏があった場合には、演奏者に対して興味関心を示さない限り、和太鼓グループの名前を覚えていることはないであろう。

「3. 大学の授業以外で和太鼓の演奏をしたことがありますか」という質問に対して、14名が「ある」と回答した。演奏した時期としては、「小学校」が最も多く8名であった。次に「未就学」で5名であった。「中学校1年」1名、「小学校3年～中2毎年秋」1名であった。演奏した場としては、「イベント」5名、発表会やクラブ活動などの「授業等」6名、「その他」3名であった。小学校6年間行っていた学生が無記入だったため、追跡調査をしたところ、地域に伝統的な和太鼓があり、小学校在学中は生徒全員が和太鼓に取り組んでいた。

また、和太鼓の演奏経験がある14名とも、「地元にお祭りがある」と回答した学生であった。そして、14名中12名が「地元で伝わる伝統的な行事や風習がある」と回答していた。

以上のことから、和太鼓に興味を持っている学生は一定数いる。そして、地元にお祭りや、伝統的な行事や風

習があると認識している学生もいるが、和太鼓の奏者やグループの認知は低い。また、育ってきた環境の中にお祭りや伝統的な行事、風習がある学生の多くが、和太鼓を演奏したことがあり、和太鼓が身近な存在であるとえる。

「4. 何をどのように子どもへ伝えていきたいと考えますか」の質問に対しては自由に記述してもらった。書かれた内容を項目毎に分類した。和太鼓の演奏を聴いた直後のためか、「和太鼓」が16個あった。「映像」で「見る」や「聴く」や、「楽しさ」14個を「伝えていきたい」25個や、「実際に」・「触れてみる」16個が目立った。和太鼓に実際に触れてみる、演奏を聴かせることで、伝統を伝えたい、歴史を学ばせたい、といった内容が多かった。和太鼓以外だと、「遊び」として「竹馬」「けん玉」等も上げられた。他には、「茶道：保育園に週1くらい先生にきてもらいみんなで体験してみる。」と具体的な構想が書かれたものもあった。

和太鼓の演奏体験直後のアンケートということもあり、和太鼓に特化した記述が多いような印象があった。和太鼓への興味関心が深まり、「是非伝えていきたい」と感じた学生の思いが表れているのだと捉えると、まず学生自身が「楽しい」や「おもしろい」と感じることで授業構成が大切である。その上で、伝統文化の歴史や意味を理論や実践とともに指導することで、学生が学びとして習得することができ、次世代の子どもへ伝えていきたいと感じてくれたのではなかろうか。大学入学までに長期の和太鼓経験があった学生や、演奏を聴いたことがある回数が多い学生ほど、「実際に和太鼓に触れてもらい、日本の文化を感じて欲しい」などの記述が見られたことから、学生自身の身近にある伝統・文化を、伝えていきたいと考えるようである。

## V. 今後の課題

学生自身の身近にある伝統・文化を、次の世代へと伝えていきたいと考えることが推察された。そのため、和太鼓に限らず、様々な日本の伝統・文化を次世代に繋げていくためには、養成校として、学生が多様な文化に触れる機会を設けることが必要であると感じた。

和太鼓を演奏したことについての感想をアンケート項

目に入れていなかったことや、集団で演奏することについての意義などを明らかにできていないため、アンケート内容を精査し、より詳細なデータを収集する方法を検討したい。それらを元に、よりよい指導内容を検討し、実践していきたい。

## 【引用・参考文献】

- (1) 文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 音楽編』 東洋館出版社
- (2) 土師範子・中典子 「子どもと表現—和太鼓を使った指導における配慮—」 『中国学園紀要』 第18号, 2019, pp. 123-128
- (3) 土師範子・多田悦子 「保育者・教員養成校における器楽指導法—前向きに個人練習に取り組むために—」 『中国学園大学子ども学部 教職課程研究論文集』, 第3巻, 2020, pp. 105-113
- (4) CiNii Articles  
<https://ci.nii.ac.jp/> (2021. 3. 23最終閲覧)  
 CiNii Articles 検索 - 芸術鑑賞会
- (5) 岡山県和太鼓連盟  
<https://www.facebook.com/okayamaken.wadaiko.renmei> (最終閲覧2021. 3. 30)